

Vol.24 No.2 '01

2002年1月30日 発行 目次

〈ワークショップ16〉	5
「新しい消化・吸収の検査法の進歩」(司会総括)	
司会 日本大学 第3内科 岩崎有良	
国立精神神経センター国府台病院 松枝 啓	
¹³C-マルトオリゴ糖誘導体Breath testによる消化管内アミラーゼ活性低下の高率検出	6
東京ガス株式会社 フロンティア研究所 伊藤あすか 他	
¹³C呼気試験による胃排出能の検討— Caloric-feedback Regulationの重要性—	9
東海大学 消化器内科 財 裕明 他	
糖尿病における呼気中水素濃度測定の臨床的意義	13
てらだクリニック 寺田明功 他	
内視鏡下検査食負荷後の呼気・消化管内腔の気体分析による消化吸収試験	20
東邦大学 第1内科 瓜田純久 他	
新規な簡易膵外分泌機能検査法の提案:	
合成¹³C-ジペプチドBreath testによる膵外分泌性タンパク質分解酵素活性の評価	24
東京ガス(株) フロンティア研究所 河野 匡 他	
Streptozotocin糖尿病ラットの脂肪吸収に関する形態的・機能的検討	27
大阪医科大学 第2内科 井山峰一 他	
脂質吸収障害の新しい評価法— stable isotope techniqueを用いて—	31
広島大学 第1内科 西岡智司 他	
¹³C標識混合中性脂肪を用いた呼気消化吸収試験法の開発及び臨床応用について	36
弘前大学 第3内科 梶 麻子 他	
¹³C呼気試験法脂肪吸収試験とD-xylose糖吸収試験による消化器外科術後吸収能の評価	41
東京慈恵会医科大学 外科 中田浩二 他	
¹³C-trioctanoin Breath test による膵頭切除後の脂肪消化吸収能の検討	46
藤田保健衛生大学 消化器第2外科 堀口明彦 他	
一般演題(ポスターセッション)	
ラット小腸のグルコース吸収に及ぼす糖尿病の影響	50
国際学院埼玉短期大学 食物栄養科 今井重之 他	
<i>in vitro</i>と<i>in vivo</i>におけるHMT-HAS中のRS割合の比較検討	53
弘前大学 第1内科 檀上和真 他	
難消化性糖は細胞間経路を介して腸管のカルシウム吸収を促進する	56
北海道科学技術総合振興センター 峯尾 仁 他	

単糖類並びに二糖類のラット小腸二糖類水解酵素に対する活性阻害	61
独立行政法人国立健康・栄養研究所 食品表示分析・規格研究部 山田和彦 他	
コレステミド投与による血中コレステロール低下のメカニズム	65
弘前大学 第3内科 松橋有紀 他	
Glicentinのthiry-vella fistula に対するtrophic effectの検討	69
近畿大学 第2外科 橋本直樹 他	
実験的クローン病ラットの粘膜透過性に及ぼす成分栄養剤の効果	73
熊本県立大学 環境共生学部 南 久則 他	
実験的クローン病ラットに対する成分栄養剤と蛋白質添加の影響	77
味の素株式会社 医薬研究所 鈴木秀樹 他	
Blind-loopを主体とし骨軟化症を合併した吸収不良症候群の1例	82
久留米大学 第2内科・消化器病センター 居石哲治 他	
長期成分経腸栄養・中心静脈栄養療法施行のクローン病症例におけるセレン補充の検討	86
社会保険中央総合病院 内科 田中寅雄 他	
胃内腔水素・メタンガスの胃粘膜へ及ぼす影響	89
東邦大学 第1内科 瓜田純久 他	
糖尿病性胃麻痺患者におけるエリスロマイシンの有効性についての検討	94
弘前大学 第3内科 長谷川範幸 他	
Gastrokinetics投与前後における糖尿病性胃麻痺患者の 13C-acetateを用いた胃排出機能の変化と血糖値の関連に関する研究	99
渡辺病院 渡辺 拓 他	
EGG・USIによる臍頭十二指腸切除後胃運動の検討	105
名古屋大学 第2外科 所 隆昌 他	
各種経腸栄養剤がCCK分泌および胆嚢収縮に及ぼす影響	106
産業医科大学 第3内科 秋山俊治 他	
臍全摘後、消化酵素補充療法で長期間栄養状態の維持できている1例の考察	110
弘前大学 第3内科 工藤貴徳 他	
経口特殊アミノ酸製剤による非代償性肝硬変時の蛋白耐用能の改善	114
昭和大学藤が丘病院 消化器内科 渡邊綱正 他	
〈ランチョンセミナー〉	
21世紀のinnovation — 安定同位体の医学薬学応用—	115
演者 明治薬科大学 薬品化学教室 梶原正宏	
クローン病における手術の適応とタイミング	
演者	
(内科の立場から)東京医科歯科大学 消化器内科 渡辺 守	120

あとがき

21世紀期待の最初の年は、世界的にはニューヨークの象徴であった貿易センタービルのテロによる崩壊と、アフガンのアルカイダに対する報復、日本においては不況による倒産とリストラなど大変な年であった。平成14年の新春を迎え「消化と吸収」VOL. 24、No. 2の発行に至った。本号は第32回日本消化吸収学会(勝健一会長)のワークショップ「新しい消化・吸収の検査法の進歩」と一般演題で発表された内容が掲載されている。日本消化吸収学会の学会賞は平成10年度から発足したが、昨年は冠学会賞として「味の素賞」が加わり、今年は更に冠学会賞に天野エンザイムから「天野学術研究奨励賞」が加わり、年に3つの学会賞が贈呈されることになった。一つ学会で3つの学会賞を贈呈しているのは、当学会だけではなかろうか。今後、若い年代の研究者から多くの発表を期待したい。

岩崎 有良